

さくちゅう

桜山中だより

7月

しんさん な 辛酸を嘗めた仲間

学校が再開された6月1日の朝の放送集会。

生徒のみなさんに、まず真っ先に伝えたかったことは、再開できたといううれしい気持ちを伝えたかったこと。そして、3か月もの間、ステイホームで友達に会えない、部活動はできないなど、我慢してきたみなさんを本当にすばらしいと伝えたかったことを思い出します。

そして、1か月が過ぎ、みなさんは新しい生活様式（手洗い、マスク着用、換気など）に戸惑いながらも、一人ひとりが気を付けて、みんなで学校生活を守っていかうとする心が表れていきました。それはきっと、あの休校、ステイホームという辛くて苦しい生活（辛酸）を、嘗めた（経験した）ことで、もう二度とあのようなことは味わいたくない、休校のような事態にはならないでほしいということを仲間と共感したのでしょう。各学年の学年通信や作文を読むと、「みんなも一緒に気持ち」ということが伝わってきます。

東京オリンピックパラリンピックが延期になり、出場予定のアスリートたちは「この期間はラッキーな時間だ、来年に向けてしっかり準備できる。」とポジティブに捉えています。みなさんにも、同じ辛酸を嘗めた仲間がいるのですから、この経験は、今後の仲間との強い絆になると思います。

困難な時だからこそ、強く主体的に仲間とともに乗り越えましょう。